

立春

旧暦では、立春に近い新月の日を一月一日としていました。立春は春の始まりであると同時に一年のスタートでもあったのです。二月四日は立春ですが、実際には気温が最も低い時期です。それでも一進一退を繰り返しながら、確実に暖かくなっていきます。日脚も伸び、日差しも明るさを増してきます。「光の春」を感じます。また、雪解けの音、川のせせらぎ、鳥のさえずり、外ではしゃぐ子供の声、暖かさが増すにつれて、春の訪れを告げる音も広がっていきます。

俳句では立春を過ぎると、寒さが厳しくても「余寒」「残る寒さ」「春寒」などと言います。どんなに冷え込んでいても、心はもう春なのです。春の風の名前もいろいろとあります。早春から東から吹くやや荒く寒い感じの風を「東風（こち）」、立春以降初めて吹く強い風を「春一番」、春の変わりやすい気候がもたらす嵐を「春嵐」または「春疾風」、春光あふれる中を吹く風を「風光る」と言います。きっと、気温でしか春を感じるだけではなく、五感を研ぎ澄ませばずっと沢山の春に出会うことができるのではないのでしょうか。

作業療法士 松本広子



特集 『作業療法』 「裁縫」 第5回

【裁縫】

裁縫とは昔からの手仕事の一つで布などの生地を裁ち、衣服や雑貨などに縫い上げる作業のことをいいます。その種類は反物から衣服を仕立てる和裁や、布に模様を縫い上げる刺し子、馴染み深い家庭洋裁などがあります。



裁縫では、肩、肘、手首、指先などの動きと、縫い目などを確認する視力が同時に働くことが大切です。また、指先の細かな感覚も要するため、布の感触の柔らかさがさまざまな神経に働きかけます。刺し子の糸の色を変えれば図案の配列の記憶や注意力、集中力が必要とします。工程自体は、基本的な縫い方さえ覚えてしまえば同じ手順の繰り返しであるため、専門的な技術は必要ありません。さらに過去の経験が活かされること、修正が容易



であること、個人のペースでできること、完成した作品が生活の中で実際に使用されるため導入がしやすいことなども特徴として挙げられます。



入所されている利用者様の作業活動の場でも刺し子や雑巾縫いは人気があります。和裁や洋裁、またはパッチワークやカバン作り等を行っていた方も多く、糸や針があれば思い出して行い楽しんでいます。利用者様同士の交流もあり、お互いの作品を鑑賞し賞賛し合うことで完成した喜びを味わいます。出来上がった作品を展示会の出展や、ご家族にプレゼントすることも一つの励みになっています。



文責 作業療法士 山下浩平 松本広子

チーム紹介①

リハビリ課

当課は、既存棟（本館）、縄文棟（新館）それぞれで通所、入所、短期入所をご利用されている皆様にリハビリテーションを提供する部署です。23名の大所帯の“チームあおりは”としてパワーアップし、皆様の生活を支援して参ります。どうぞよろしくお願い致します。

職員紹介 リハビリテーション課

- 4列目左より
(PT) 徳上・星野・山田倫人 (OT) 佐久間・有島
- 3列目左より
(PT) 長者森・永瀬・福西・梁川・末廣 (OT) 山田尚平・大瀧
- 2列目左より
(A) 妹尾・吉田・菅原 (OT) 細谷・近藤・丸藤
- 1列目左より
(ST) 水谷・中里・末岡 (OT) 佐々木・松本



クリスマス会

平成25年12月22日（日）と24日（火）にクリスマス会が行われました！デイケアの職員がチーム丸となって取り組んだハンドベルの様子です。



平成26年 リハビリ課 目標



今年も職員それぞれ目標や夢に向かい皆様とともに頑張っていきます。どうぞよろしくお願いいたします。
絵・丸藤

新入職員紹介

山田 倫人 (理学療法士)

新しい職場や環境に不安もありましたが、現場の明るい雰囲気や気持ちに和んできています。早く仕事を覚えられよう頑張ります。



長者森 早苗 (理学療法士)

色々未熟者ですが、精一杯頑張りますので、よろしくお願い致します。



私のふるさと自慢

私の故郷は広島です。広島は路面電車や広島東洋カープ、それからなんといっても世界文化遺産が二つあります。安芸の宮島厳島神社ともう一つ原爆ドームです。

日本は世界で唯一の被爆国であり、広島原爆ドームは平和の大切さを世界に伝えるシンボルとなっています。



私が過ごしていた昭和30年代は、今思うととてもどこかでした。子供たちは原っぱで皆一緒に遊び、まだ小さかった私は見るだけでしたが、何だかワクワク楽しかった事を覚えています。

あの頃の風景や人々・出来事などを思い出すと、何ともノスタルジックで、全てが懐かしく思われます。ふるさとを思い浮かべるといいものですね。

介護福祉士・音楽療法士 妹尾福子